

# 京都市内遺跡試掘調査概報

平成5年度

京 都 市 文 化 観 光 局

## 序

京都は、恵まれた自然環境の中で幾多の歳月と歴史を積み重ねて、今年建都1200年という輝かしい節目を迎えました。

平安京の造営以来、常に日本文化の先導的な役割を果たすべく、限り無い創造を続けてまいりました先人の足跡を示す多くの文化遺産は、時代の変貌により今は地上から姿を消して、埋蔵文化財として地中に深く眠っています。

しかし、この貴重な埋蔵文化財も最近の著しい都市の開発に伴い、重大な危機を迎えようとしています。

私達の先人が残した、かけがえのない価値を持った埋蔵文化財を、できるだけ保存して現在の生活の中に活用し、後世の人に伝えることが、現代に生きている私達に課せられた大切な責務であると考えています。

本書は、京都市が平成5年度に文化庁の国庫補助を得て実施した、埋蔵文化財調査の概要報告書であります。

立会調査、発掘調査につきましては、本市が財京都市埋蔵文化財研究所に委託したものであり、試掘調査は京都市埋蔵文化財調査センターが実施したものであります。

終わりに、発掘調査にご協力いただいた市民の方々及びご指導・ご助言をいただいた関係者の方々に心から感謝いたしますとともに、本報告書が少しでも京都の歴史を知るための資料として皆様のお役にたてれば幸いです。

平成6年3月

京都市文化観光局

## 例 言

- 1 本書は、京都市が平成5年度の文化庁国庫補助を得て作成した京都市内遺跡試掘調査概要報告書である。

なお、本書は平成5年1月から12月まで実施した試掘調査の結果を報告している。

- 2 試掘調査を実施した地区・所在・調査日・調査概要については、一覧表に掲載している。
- 3 本文の執筆分担は、文末に記している。
- 4 本書に使用した地図は、本市計画局発行の都市計画基本図（縮尺1/2,500）を複製して調整したものである。なお図版に使用した地図の縮尺は以下のとおりである。  
図版3 1/8,000 図版4～19 1/10,000
- 5 本書で使用した土壌色名は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修「新版標準土色帳」に準じた。
- 6 本書作成・調査実施にあたっては、京都市埋蔵文化財調査センターが担当し、下記に所属する方々の協力を得た。

京都市文化観光局文化財保護課 ㈱京都市埋蔵文化財研究所



図1 調査地区割図

# 目 次

I 試掘調査の概要……………1	V 常盤東ノ町古墳群 ……27
1 調査の概要 ……1	1 調査経過……………27
2 各地区の調査概要 ……1	2 遺構・遺物……………27
II 平安宮朝堂院修式堂跡推定地…8	3 まとめ……………29
1 調査経過 ……8	VI 名勝 龍安寺庭園 ……30
2 遺 構 ……9	1 調査経過……………30
3 遺 物……………11	2 遺構・遺物……………31
4 まとめ……………11	3 まとめ……………34
III 平安京右京八条二坊十三町跡…17	VII 中久世遺跡 ……36
1 調査経過……………17	1 調査経過……………36
2 遺 構……………19	2 遺構・遺物……………36
3 遺 物……………19	3 まとめ……………37
4 まとめ……………20	VIII 長岡京左京四条三坊跡…38
IV 平安京右京八条一坊十町跡 …22	1 調査経過……………38
1 調査経過……………22	2 遺 構……………39
2 遺 構……………23	3 遺 物……………40
3 遺 物……………24	4 まとめ……………41
4 ま と め……………25	

## 図版目次

- 図版1 平安京図案分割図
- 図版2 平安宮城概念図
- 図版3 平安宮
- 図版4 右京北辺・一・二・三条 三・四坊
- 図版5 右京北辺・一・二・三条 一・二坊
- 図版6 左京北辺・一・二・三条 一・二坊
- 図版7 左京北辺・一・二・三条 三・四坊
- 図版8 右京 四・五・六・七条 三・四坊
- 図版9 右京 四・五・六・七条 一・二坊
- 図版10 左京 四・五・六・七条 一・二坊
- 図版11 左京 四・五・六・七条 三・四坊
- 図版12 右京 八・九条 三・四坊 左京 八・九条 一・二坊
- 図版13 右京 八・九条 一・二坊 左京 八・九条 三・四坊
- 図版14 広隆寺旧境内・名勝龍安寺庭園・北野遺跡・北野麩寺・法界寺旧境内  
法住寺殿跡・大塚遺跡
- 図版15 植物園北遺跡・白川街区跡
- 図版16 伏見城跡
- 図版17 鳥羽離宮跡・下鳥羽遺跡
- 図版18 中臣遺跡・福西古墳群・唐橋遺跡・上久世遺跡・中久世遺跡
- 図版19 長岡京跡

## 挿 図 目 次

図1 調査地区割図……………例言	図22 遺物(土師器)実測図……………25
図2 墨書土器……………2	図23 調査地位覆図……………27
図3 「西」銘唐草文軒平瓦……………2	図24 遺構実測図……………28
図4 織部風の陶製井戸滑車……………3	図25 古銭拓影……………29
図5 広隆寺旧境内出土瓦拓影 及び実測図……………4	図26 土器実測図……………29
図6 伏見城跡から出土した 近世陶磁器実測図……………6	図27 調査地位地図……………30
図7 平安宮図と調査位置……………8	図28 トレンチ位置図……………31
図8 調査地位覆図……………8	図29 1トレンチ東端部平面図・ 東壁土層図……………32
図9 調査平・断面実測図……………10	図30 2トレンチ木樋平面図・ 南壁土層図……………32
図10 1トレンチ南端東壁土層図……………10	図31 土器実測図……………33
図11 朝堂院の復元と遺構確認場所……………12	図32 軒平瓦拓影・実測図……………33
図12 平安京条坊図……………17	図33 調査地位覆図……………36
図13 調査地位覆図……………17	図34 土器実測図……………37
図14 調査平・断面実測図……………18	図35 遺構実測図……………37
図15 溝跡部分南壁土層図……………18	図36 長岡京条坊図……………38
図16 遺物(土師器)実測図……………19	図37 調査地位覆図……………38
図17 平安京条坊図……………22	図38 調査トレンチ位置図……………39
図18 調査地位覆図……………22	図39 トレンチ中央北壁土層図……………40
図19 調査場所とトレンチ位置図……………23	図40 井戸跡平・断面略測図……………40
図20 調査平・断面略測図……………24	図41 遺物実測図……………41
図21 溝1の東壁土層図……………24	

## 表 目 次

表1 平成5年の試掘調査件数……………7	表2 試掘調査一覧表……………44~48
----------------------	----------------------

## 写 真 目 次

写真1	広隆寺旧境内（トレンチ全景）北から	4
写真2	中臣遺跡で検出した東西溝跡（東から）	5
写真3	1トレンチ中央付近の凝灰岩片（東南から）	10
写真4	部分的に残る凝灰岩の破片（2トレ）西から	11
写真5	調査前写真（北から）	15
写真6	2トレンチ全景（北から）	15
写真7	1トレンチ全景（北から）	15
写真8	部分的に凝灰岩の破片が残る（1トレンチの南方）南から	16
写真9	2トレンチ北方で検出した瓦を敷いた東西溝跡（近世）と礎石（北東から）	16
写真10	調査前写真（西南から）	18
写真11	トレンチ全景（東から）	21
写真12	トレンチ全景（西から）	21
写真13	トレンチ拡張部で検出した南北溝跡（推定遺祖大路東側築地内溝）北から	21
写真14	トレンチ全景（北から）	26
写真15	トレンチ南方東西溝跡（南から）	26
写真16	東西溝（溝1）跡の底部（南から）	26
写真17	東西溝（溝2）跡（東から）	26
写真18	SX3全景（北東から）	29
写真19	1トレンチ全景（西から）	35
写真20	1トレンチ東端部地葉検出状況（東から）	35
写真21	2トレンチ木樋検出状況（北から）	35
写真22	2トレンチ木樋詳細（北から）	35
写真23	溝全景（北東から）	37
写真24	調査前写真（東から）	42
写真25	トレンチ全景（西から）	42
写真26	西方で検出した井戸跡（南から）	42
写真27	井戸完掘状況写真（北西から）	43

## I 試掘調査の概要

### 1. 調査の概要

京都市では昭和47年に初めて『京都市遺跡地図』を作成し、その後4回の改訂作業を経て、埋蔵文化財包蔵地内で行われる各種土木工事に関して、文化財保護法に基づく行政指導を行ってきたところである。

市内の遺跡包蔵地内で行われる建築・土木などの各種工事計画については、事前に住宅局建築指導課・建設局開発指導課・消防局所轄消防署などの行政指導部局と連携して事前チェックを行い、届出書や通知書を受理し、工事の規模内容や遺跡の残存状況に応じて、発掘調査・試掘調査・立会調査など、遺跡の保護に適合した調査を指導している。

そのうち遺構の残存状況確認や発掘調査実施の有無を判断するための試掘調査は、平成3年度からは京都市埋蔵文化財調査センターが直営で行っており、今年度で3年目となる。

この概要報告書は、京都市埋蔵文化財調査センターが平成5年1月6日から12月22日まで実施した試掘調査の結果をまとめたものである。

### 2. 各地区の調査概要（44～48頁の試掘調査一覧表・図版3～19参照）

#### 平安宮地区

平安宮跡内では内裏・朝堂院・中務省・主水司・大藏（聚楽第）・兵部省・大宿直・宴松原などの推定地8件を試掘調査した。

美福通りと丸太町通り交差点の南西角地の中務省跡推定地からは、平安時代の遺物包含層が見つかったことから発掘調査を指導した。その結果、中務省内を東西に区画する溝跡が検出された。

大宿直跡（聚楽第跡）では、敷地の西から東へ下がる大きな落ち込み（聚楽第の堀？）を検出し、その埋土内から平安時代前期の遺物が出土した。

宴松原の調査では、地山面が浅く、その直上で若干の平安時代の遺物を検出したが、宴松原の解明に繋がる成果を得ることはできなかった。

そのほか朝堂院内の修式堂跡推定地では、以前より遺構検出に大きな期待が寄せられていた場所の試掘調査を行ったが、残念ながら後世の擾乱が多く遺構の検出はできなかった。



### 平安京右京地区

右京地区では合わせて23件の試掘調査を実施した。

西大路通七条下る御所内町（右京八条二坊十一町跡）の現場からは、地表下0.6mで平安時代前期の遺物包含層を検出し、土師器・須恵器（墨書土器…図2参照）などの遺物が多数出土したことから発掘調査を指導した。

また妙心寺境内西隣の花園大藪町の現場では、遺跡は平安京西京極大路に該当するが、妙心寺塔頭の一つである実相院跡とみられる遺構を検出したため発掘調査を指導した。

西大路御池交差点一筋下る東南角の敷地（右京三条二坊十一町跡）からは、石敷き遺構や井戸跡を検出したことから発掘調査を指導した。

八条通りと佐井通りの交差点を北へ上がった、八条二坊十町跡では、2回の試掘調査を実施した結果、道祖大路東側溝を検出したため、設計変更を指導し遺構保存を図った。

そのほか右京域では中御門大路側溝・八条坊門小路北側溝・西堀川小路側溝などを検出している。

また小規模ではあるが、数箇所平安京条坊に伴う溝跡・土塙・池状遺構などを確認する成果を上げている。

このように最近の右京域内での調査件数の増加によって、以前に増して平安京右京地域における遺構の残存状況がより明確となってきている。

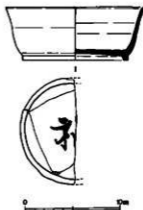


図2 墨書土器（八条二坊十一町出土）

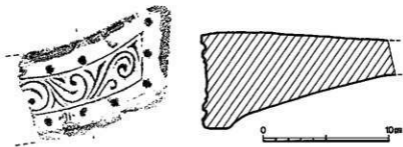


図3 「西」銘唐草文軒平瓦（右京七条二坊跡七・十町跡出土）

#### 平安京左京地区

左京地区は右京地区に比べて件数は少なく、合わせて6件の試掘調査を行った。

平安京東京極大路跡（三条四坊十四町跡）に当たる京都市役所前の本能寺前町の試掘調査では、一部土層断面に路面状の堅い層を確認したものの、敷地内のほとんどが近世・近代の攪乱層であったが、あげ土内から織部風の陶製滑車（井戸の水汲みに使用）を発見した。（図4）

上京区椿木町通衣棚西入今楽屋町の左京二条三坊八町跡では、平安時代の遺構は明らかにできなかったが、室町時代から桃山時代にかけての整地土や溝跡を確認した。

また東堀川通りと御池通りの交差点を北上上がった東側の、堀川院跡及び堀川小路跡に比定される左京三条二坊十町跡では、敷地西端で現在の堀川（西）へ向かって下がる落ち込み（護岸施設）を南北2箇所で見出し、平安京内の重要な河川の一つであった堀川の姿を知る上で重要な成果が期待されることから発掘調査を指導した。

そのほかの現場では、中・近世の遺構遺物をいくつか検出した箇所もあったが、近・現代の攪乱が多く、また平安時代の遺構が極めて脆弱な所が多いことから発掘調査に至っていない。

#### 太秦地区

太秦地区では広隆寺旧境内2件、常盤東ノ町古墳群1件・常盤仲之町遺跡1件・名勝龍安寺境内1件の合わせて5件の試掘調査を行った。

特に広隆寺東方の太秦蜂岡町36-4からは、平安時代以前の柱穴や土壌を検出したため発掘調査を指導した。

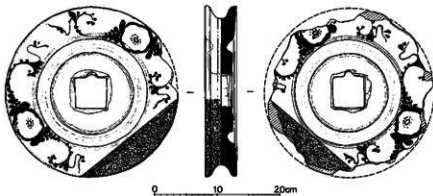


図4 織部風の陶製井戸滑車（左京三条四坊十四町、東京極大路跡出土）

また広隆寺田境内南方（太秦桂木町11-1）からは、焼土を伴う時期不明の遺構と、平安時代の土器を含む整地上層（奈良時代の瓦も含む）を確認したが明確な遺構検出には至っていない。（写真1、図5参照）

常盤東ノ町古墳群からは、古墳時代の溝状遺構や、平安時代の土痕などを検出、また古墳時代の須恵器が何点か出土した。

そのほか史跡・名勝指定地の現状変更に伴う試掘として龍安寺境内（名勝指定）鏡容池の護岸工事に伴う試掘調査を行ったが、その際に水量調節に伴う施設（木樋）を検出し、また院政期前の四円寺に伴うとみられる平安時代の瓦が何点か出土した。



写真1 広隆寺田境内（トレンチ全景）北から

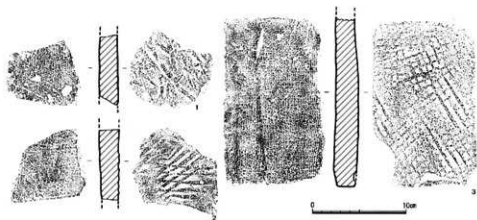


図5 広隆寺田境内出土瓦拓影及び実測図

### 洛北地区

北野遺跡2件・北野庵寺1件・植物園北遺跡2件の5件の試掘調査を行った。

この地区の調査では、いずれも有力な遺構・遺物は検出できなかった。

### 北白川地区

六勝寺跡の法勝寺跡1件・尊勝寺跡1件と白河街区跡2件の4件の試掘調査を行った。

法勝寺跡は寺域東外で遺構は検出できず、尊勝寺では推定東限築地の有力候補地の試掘調査を行い、平安時代後期の遺瓦を含む整地面を検出したが、築地跡は確認できなかった。

白河街区跡に当たる左京税務署西隣の敷地では、時期不明流路を検出し、また平安時代中期の遺物が若干量出土している。

### 洛東地区

この地区では、法住寺殿跡に当たる大谷高校内で試掘調査を行ったが、近世の南北溝を確認するにとどまった。

### 伏見・醍醐地区

伏見城跡3件・法界寺旧境内1件・大塚遺跡2件・中臣遺跡3件の9件の試掘調査を実施した。

伏見城跡では、城下町にあたる旧京町通（南北）の路面及び東側溝跡を検出し、敷地東端で検出した井戸状遺構からは、多数の近世陶磁器が出土した。（図6）

そのほか伏見区東町の試掘調査では、有力な遺構はないものの、江戸時代の土城や溝跡を多数検出した。

山科区の大塚遺跡では時期不明の溝状遺構を検出したが、他に遺構は確認できなかった。

そのほか中臣遺跡では、勧修寺東栗栖野町の浅いところから、幅約1.7m、深さ0.55~0.8mの東西方向の溝跡（時期不明・写真2）を検出したが、そのほか有力な遺構・遺物は確認できなかった。

### 鳥羽地区

この地区では鳥羽離宮跡が7件、下鳥羽遺跡1件の8件の試掘調査を実施した。



写真2 中臣遺跡で検出した東西溝跡（東から）



1～9…湯飲茶碗・10～15…碗・16…神酒掬利・17…小瓶・18…水筒・19～21…灯明受皿  
22…土瓶蓋・23～26…土師質重器・27…大鉢

図6 伏見城跡（京町一丁目の京町通り東）から出土した近世陶磁器実測図

鳥羽離宮跡では池沼状堆積土層を確認する程度で、試掘調査場所が遺跡の希薄なところが多く、有力な遺構は検出していない。

以前は船着き場跡としていた、城南宮道と50m道路（新油小路通）の南東角の土地から、浄菩提院に関係するとみられる突塊状の地業跡の最南端を確認する重要な成果があった。

#### 南・桂地区

福西古墳群1件・唐橋遺跡1件・上久世遺跡3件・中久世遺跡3件の合わせて8件の試掘調査を実施した。

上久世遺跡では、JR東海道線下をくぐる東西道路の南東にある水田から、住居跡や柱跡を検出し、発掘調査を指導した。

中久世遺跡では弥生時代の溝状遺構を検出し、溝内から土器が出土した場所や、弥生から古墳時代にかけての遺物を含む不明遺構を確認した場所があったが、いずれも遺構が小規模で、ほかには重要な遺構・遺物を確認できなかったことから試掘調査段階で完掘した。

#### 長岡京地区

長岡京左京跡域内では12件の試掘調査を行ったが、盛土層が厚く遺構検出が困難な場所や、遺構の存在する可能性が少ない低湿地状堆積を呈する場所が多く、有力な遺構の検出はできなかった。

羽東師菱川町にある神川中学校西側の左京四条三坊跡の試掘調査では、東三坊大路の西側溝と平安時代後期の井戸跡を検出した。

表1 平成5年の試掘調査件数

(件数)

年度	平安宮	右京	左京	その他	合計	発掘指導	設計変更
平成4年度	1	6	1	13	21	3	0
平成5年度	7	17	5	38	67	4	3
合計	8	23	6	51	88	7	3

## II 平安宮朝堂院修式堂跡推定地 No.28

### 1. 調査経過

試掘調査を行ったのは京都市中京区聚楽廻東町20番地で、旧二条通りと千本通り交差点を北へ一筋上って西へ入った、通りに面した南の敷地 (277.26㎡) である。

ここは以前に公衆浴場「稻荷湯」があったところで、今回小規模マンション計画が持ち上がったことから事前に試掘調査を実施し、遺構の残存状況の確認調査を行った。

今から20年以上前の昭和46年(1971)に、この浴場の入口に当たる東西道路で下水道

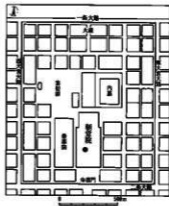


図7 平安宮院(大内裏)と調査位置

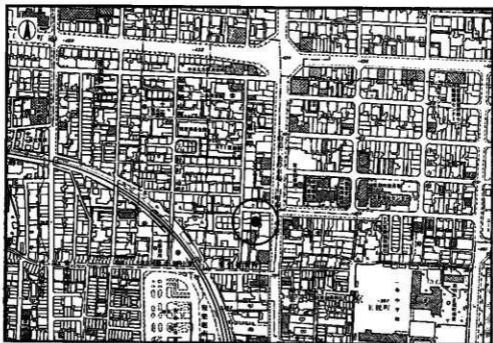


図8 調査地位位置図 (1/5,000)

埋設管布設工事が行われ、その際に建物基壇跡の一部とみられる、東西方向の凝灰岩が掘えられた状態で見つかった。

この遺構は朝古代学協会によって調査が行われた結果、朝堂院内の建物の一つである修式堂（この調査では延祿堂跡の基壇も確認されている）の基壇を形成していた凝灰岩の延石と推定された。

この時点で約13m程確認された凝灰岩列は、修式堂の北辺に当たるのか、あるいは南辺であるのか明かではなかったが、その後朝堂院内で行われた調査<sup>2)</sup>などの成果から、現在のところは修式堂北辺の基壇最下部に当たる延石と考えられている。

以上の経過から、修式堂北辺基壇のすぐ南に当たる当該浴場は、修式堂に当たる可能性が高く、南北に長い敷地の南半からは修式堂南辺基壇の何等かの遺構を発見できる可能性があると考えられ、当該地の建て替えに際して埋蔵文化財調査を実施すれば、平安宮の復元にとって重要な成果を得ることができる場所として、以前より期待されてきたところである。

以上の経過を踏まえ、当該地は朝堂院の修式堂に該当することを前提として試掘調査を行うこととなり、試掘調査は事業主の協力を得て平成5年10月19日に実施した。

## 2. 遺 構

### (1) 1トレンチ（長さ21m、幅約2.5m）

南北に長い敷地の西半に南北方向にトレンチを設けて掘削を行った。

その結果、トレンチ内は浴場建物基礎工事及びその建物の解体工事によって大きく攪乱を受け、予想以上に遺構の残存状況が不良であることが判明した。

特に修式堂の推定南辺基壇（東西）部分は、現代層直下にこの付近の地山である砂礫層が存在し、平安時代の整地層とみられる褐色粘質土は極めて部分的にしか存在していなかった。

トレンチ中央付近の近世～近代の方形土壙内では、一部加工面痕を有する凝灰岩（写真3）の小破片2個を検出したが、元の状態で掘えられたものではなく、後世に穴へ廃棄されたものと判断される。

また北半で東西方向の浅い溝跡を検出したが、これは以前の浴場があった時のものと解される。

その他、トレンチの北端では、地表下15cmで褐色粘質土となり、それ以下では遺物を含



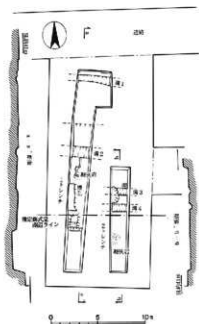


図9 調査平・断面実測図



図10 1トレンチ南端東壁土層図

まない土層となることから、この層は平安時代の整地土と解釈して、トレンチをさらに東へ拡張した。

修式堂基礎下部に残存する可能性のある柱穴のピットや根石、あるいは版築土層の検出及び確認作業を行ったが、北端部分（敷地北側の道路端から約7 m）を除いてこの層の直下は砂礫の地山となり、すぐ北方で確認されている修式堂北辺の凝灰岩列と繋がりのある遺構は何も検出できず、時期不明（近世？）の浅い東西溝跡を検出した程度であった。

この結果、北端部分を除いてトレンチの大半は、この付近に存在する砂礫層（地山）が現代盛土層直下に露出しており、遺構面は中・近世の削平に加え、浴場基礎工事の時点や、解体工事によって既に大きく削平を受けたものと判断された。

以上、トレンチ全体では南に行くほど攪乱が著しい結果となった。



写真3 1トレンチ中央付近の凝灰岩片（東南から）

(2) 2トレンチ(長さ11m, 幅約2m)

敷地の東側に1トレンチと平行して南北に設ける。

トレンチ南方では, 地表下40cmで砂礫層のベースとなり, 上層にわずかに遺物を包含する褐色粘質土が存在, トレンチ南端から北へ約7mのところから, 凝灰岩が粉々になった状態で部分的に存在して

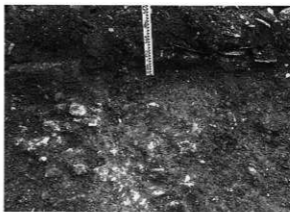


写真4 部分的に残る凝灰岩の破片(2トレ)西から

いる箇所を検出(写真4)したが, 据えられた状態のものや, 元位置を示すようなものはなかった。

またトレンチ南端から北へ10m, 深さ50cmのところ(旧浴場基礎直下)から, 東西の溝跡(幅70cm, 深さ10cm以上)が検出された。

この溝内からは近世頃の瓦が多数出土し, また溝底は瓦が敷かれたような状況であった。

また, この溝のすぐ北には自然石を使った礎石(この溝に伴う遺構)が見つかったが性格は不明である。

2トレンチからは, その他に遺構は検出できなかった。

### 3. 遺物

遺物はコンテナ2箱程度出土したが, その主なものは瓦類で, そのほか若干の土師器と凝灰岩の小破片が出土した程度で, 報告できるようなものはない。

出土遺瓦は, 角の丸くなった布目・芋叩き圧痕を有する平・丸瓦(平安時代)の小破片で, 軒先瓦や緑釉瓦は出土していない。

### 4. まとめ

朝堂院は, 平安京の宮殿官衙部分たる平安宮(大内裏)の中央に位置する施設で, 八省院ともいわれ, 正殿建物である大極殿は周知のとおり天皇の即位式を行う場であり, 正月に行われる群臣の朝賀や, また外国使節を謁見する国儀大札の場でもある。

大極殿は文献から延暦14年(795)中には完成し, 翌15年元旦には桓武天皇はその高御座

に御して群臣の朝賀を受けている。

朝堂院には、大極殿院内にある小安殿をはじめとして、12の堂や朝集堂のほか、23箇所に門が設けられていた。

朝堂院の正殿たる大極殿の屋根の軒先・棟には高級な緑釉瓦が葺かれ、左右の回廊隅は白虎・蒼龍の楼で飾り、12堂は一段下がった龍尾樓の南方に直面して存在した。

朝堂院は八省の官人が執務する場で、当初は毎朝出勤した大臣以下の公卿が政務を評議し、天皇が親裁する朝政の場であったが、後には儀式化し、儀式のみに当てられるようになった。

大極殿は、創建以来80年ほど経た貞観18年(876)に火災で焼失し、その後には再建されたが、さらに康平元年(1058)、安元3年(1177)と三回も焼失再建を繰り返し、以後再建されることはなかった。

朝堂院跡は、千本通りと丸太町通りの交差点を中心とした既に市街地化された住居密集地にあり、建替や小規模な開発行為に際して発掘調査・試掘調査・立会調査など、地道な考古学調査を重ね、僅少ながらくつかの場所で重要な成果を上げている。

考古学的な調査成果から明らかとなっている朝堂院の規模は、平安宮東西幅(384丈)の6分の1に当たる64丈(191m)であることが判明している。また南北寸法については、南端が未確認であることから明確ではないが、確認されている民部省の南辺築地の延長線上と一致するとすれば118.8丈(約354m)となる。

また修式堂の南北幅については、すぐ西隣にある延祿堂及び東方にあ



図11 朝堂院の復元と遺構確認場所(調査場所)

る明礼堂が既往の調査結果から5.9丈(17.5m)と判明しており、それと同規模であると考えられる。

朝堂院は平安宮内における最重要施設であるにもかかわらず、遺跡として現在までに確認されている場所は以外に少なく、図11に示すとおり20箇所に満たない。

朝堂院跡内で、発掘調査や立会調査など考古学的調査によって最近までに明らかとなっている地点は、廊跡では大極殿東軒廊<sup>3)</sup>・大極殿院北回廊嘉喜門付近<sup>1,2)</sup>・蒼龍廊東回廊コーナー一部<sup>4)</sup>・昌福堂付近<sup>5)</sup>・宣政門付近<sup>7)</sup>。また建物跡では修式堂<sup>6)</sup>・延祿堂<sup>8)</sup>・承光堂<sup>5)</sup>・明礼堂<sup>5)</sup>・暉章堂<sup>5)</sup>などである。

いずれの確認遺構も、主に建物基壇最下部を構築していた凝灰岩の延石や地覆石のほか、良好な場所では羽目石や東石などの下位部分で、そのほかに階段施設や溝跡などもある。

朝堂院の西方では豊楽院の正殿である豊楽殿跡の一角が見つかっている。しかし朝堂院の正殿である大極殿の推定場所は、確認された東軒廊跡基壇から、千本通りと丸太町通りの交差点の北寄り部分と考えられているが、未だにその発見には至っていない。

今回の調査対象となった修式堂は、八省の一つである式部省・兵部省の座があった所で、東西に長い7間規模の建物と推定され、基壇は凝灰岩の切石で化粧が施されていたものと考えられる。

今回は試掘調査という限られた規模の調査であったため詳細な調査は行えなかったが、遺構面は大部分が既存建物によって削平を受け、残存していなかった。

これは現状地盤に比べ、この付近は朝堂院内の建物基壇面がもともと高く、後世の削平を受けやすかったことが要因しているものと解釈できる。

しかし2トレンチの南半で検出した凝灰岩の細破片の存在は、付近に修式堂の南辺基壇が存在(基壇北辺が確認された北側道路南半から5.9丈南)していたことを伺わせるものであり、また敷地の北端で一部分に平安時代の整地土とみられる褐色粘質土が存在している箇所を確認できたことは大きな成果である。

これは敷地の北方に向かって少々ながら整地土が残存している可能性があることを示唆しており、昭和47年に北側道路舗装直下で見つかった東西の凝灰岩延石は、このような条件下で、整地層内に辛うじて基壇最下部が残存していたものと思われる。

(梶川敏夫)

註

1) 伊藤玄三「平安宮朝堂院の遺構—延祿堂・修式堂—」『古代文化』24巻8号 1972年

- 2) 辻 純一「発掘調査資料を中心とした平安宮復元の現状」『平安京歴史研究』(一杉山僧三先生米寿記念論集刊行会編—1993年)に、平安宮跡で検出された遺構がまとめて紹介されている。
- 3) 梅川光隆「平安宮大極殿院(2)」『平安京跡発掘調査概報』昭和60年度、京都市文化観光局、1985年
- 4) 木下保明「平安宮大極殿院」『平安京跡発掘調査概報』昭和59年度、京都市文化観光局、1985年
- 5) 辻 純一「平安宮大極殿院(1)」『平安京跡発掘調査概報』昭和60年度、京都市文化観光局、1986年
- 6) 百瀬正恒「II平安宮朝堂院跡」『京都市内遺跡試掘立会調査概報』平成2年度、京都市文化観光局、1990。
- 7) 梅川光隆「平安宮・平安京」(ガス管布設管工事に伴う立会調査概要54—301979年、(財)京都市埋蔵文化財研究所内部資料)
- 8) 註1)に同じ



写真5 調査前写真(北から)



写真6 2トレンチ全景(北から)



写真7 1トレンチ全景(北から)



写真8 部分的に凝灰岩の破片が残る（1トレンチの南方）南から



写真9 2トレンチ北方で検出した瓦を敷いた東西溝跡（近世）と礎石（北東から）

### III 平安京右京八条二坊十三町跡 No.6

#### 1. 調査経過

試掘調査場所は京都市下京区七条御所ノ内本町37番地である。

佐井通りと八条通り交差点を北へ上った東側に当たり、敷地は佐井通りに面し、すぐ北東には御所ノ内児童公園がある。

平安京右京城の中でも南北の佐井通りを挟んだ地域は、掘立柱建物などの建築遺構が良好な状態で残存し、また合わせて出土遺物量も多い場所があり、他の地域に比べて平安時

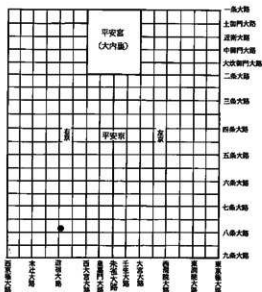


図12 平安京桑坊図 (調査位置)

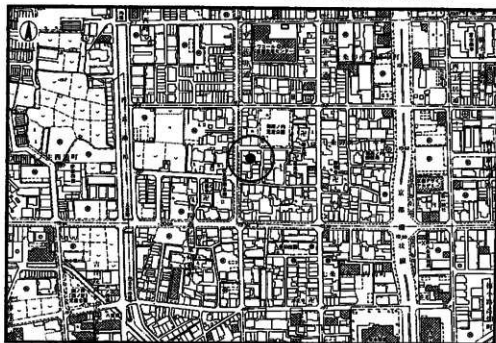


図13 調査地位図 (1/5,000)



代前期に遡る遺構や遺物が検出される確率の高い地域である。

敷地は479.83㎡あり、マンション建設計画に伴って事前に試掘調査を指導した。

当該地では既存建物解体前の平成5年3月4日と、解体後の5月26日の2回に分けて調査を行った。

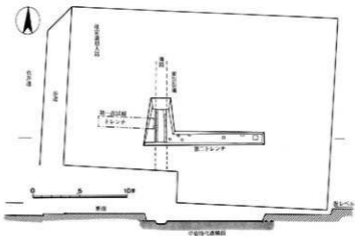


図14 調査平・断面実測図

第1回目の試掘調査では、既存建物解体前であったことから敷地の西半の一部を掘削し、地表下0.6～1mで平安時代の遺物を包含する褐色泥砂及び褐色砂泥層を検出した。

しかし調査場所が狭小であったことから、遺構の性格や残存状況を十分に明確にできないため、改めて第2回目の試掘調査を実施することになった。

2回目の試掘調査の結果、当該地南半の西側から南北溝跡を検出し、さらにその東方で柱穴跡などを確認、平安時代の遺構が良好に残存していることが判明した。

遺構を検出したことから、改めて建設関係者と協議を行った結果、遺構を建物基礎下に残すように指導を行い調査を完了した。

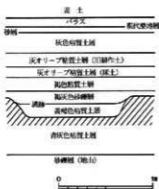


図15 溝跡部分南壁土層図



写真10 調査前写真(西南から)

## 2. 遺 構

調査場所は、右京八条二坊十三町跡の邸宅内及び道祖大路東半に当たる場所である。

五条通り以北の調査例では、道祖大路の東半には佐井川が流れていたことが確認されており、今回の調査場所は道祖大路東半の佐井川から築地及び内溝から宅地内に該当すると考えられる場所である。

既存建物を解体する前に行った第1回の試掘調査結果では、平安時代の遺物包含層を確認しているため、2回目の試掘調査では、敷地の南半の西から東にかけて1回目のトレンチの続きを、長さ13m、幅1.3mについて調査を行った。

その結果、現在の佐井通り東端の敷地境から東へ9.7m（第1回目のトレンチ東限に当たる）の地表下約0.75mから、幅1.2m、深さ10～25cm程の南北溝跡を検出した。

溝内からは9～10世紀頃の土師器・須恵器・灰釉陶器・緑釉陶器などの土器片や瓦が出土したため、あらためてトレンチを北へ拡張した結果、この溝は南北へ続くことが判明、最終的には南北溝跡を長さ3.5m余り検出した。

溝を形成する土層は遺物を包含していない青灰色粘土層であることから、改めてボーリングステッキで確認したところ、0.4m程（地表下1.45m）下層に砂礫ベースが存在することが判明した。

この結果、下層の砂礫は流れ堆積を示しており、またその上層の青灰色粘土の存在は、平安京造営以前にこの付近が池または低湿地状の土地であったことをうかがわせる。

また検出した南北溝の東方は、青灰色粘土層上に黄褐色粘質土が存在し、緩やかな傾斜で浅くなってゆく。これは平安京造営時の整地層（あるいは自然堆積した粘質土の可能性もある）と考えられるが、この土層上で方形や円形の大小の7箇所の柱穴を検出した。

いずれも小規模なトレンチ調査であることから、性格や規模は不詳である。

## 3. 遺 物

遺物は破片ばかり遺物コンテナに1箱ほどあり、ほとんどは南北溝跡の中から出土した。

種類は遺瓦・土師器・須恵器・緑釉陶器・灰釉陶器などの破片で、平安時代前期に属するものばかりであった。

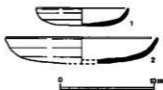


図16 遺物（土師器）実測図（1/4）

#### 4. まとめ

今回検出した溝跡は、幅1.2m、深さ10～25cmで、南北3.5m分を確認した。

この溝跡は検出位置から推測して、道祖大路東側の邸宅の築地に伴う内溝と考えられる。

今回検出した南北溝は、この北方に当たる四条通りと佐井通り交差点を南へ下る東側において、平成2年（1990）11月に試掘調査で検出した道祖大路の東側築地内溝跡と同じ条坊ライン上にある溝と判断される。

ただし、五条通り以北では道祖大路東半が大きな川（佐井川）となっているが、今回の場所ではこの川跡を確認していない。

トレンチ内の溝跡の東方で検出した柱穴と思われる7箇所のピットは、大は一辺60cmほどの方形のものから、小は半径26cmほどまであり、この邸宅内にあった建物の一部を検出したものと思われる。

（梶川敏夫）



写真11 トレンチ全景（東から）



写真12 トレンチ全景（西から）



写真13 トレンチ拡張部分で検出した南北溝跡（推定道祖大路東側築地内溝）北から

## IV 平安京右京八条一坊十町跡 No.42

### 1. 調査経過

調査場所は京都市下京区西七条西久保町58番地で、御前通りと西塩小路通り交差点を東へ入った北側の敷地で、西側に少し離れて久保児童公園がある。

試掘調査は平成5年12月13日に実施した。

当該地の面積は1,589㎡、以前には25軒程の木造家屋が建っていた場所で、試掘調査時に民家は既に解体されて更地となっていたが、敷地にはT字形に路地が残っており、そこには既存の埋設管が入っているこ

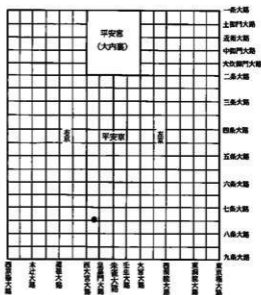


図17 平安京桑坊図 (調査位置)



図18 調査地位置図 (1/5,000)

とから、この路地部分は調査対象から除外した。

当該地は平安京復元モデルから、敷地南端東西に幅4丈(12m)の八条坊門小路(現:西塩小路通り)の北側溝及び北側築地が通り、また敷地の西半南北には幅4丈(12m)の西備筒小路が通る交差点に当たり、京内邸宅の南西の一角に比定される。

なお邸宅内の主は不詳であるが、すぐ西北には平安京の官営市場である西市があり、また東方には大將町が存在、そのほか

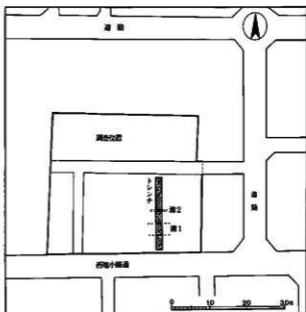


図19 調査場所とトレンチ位置図

少し離れた東方には平安時代後期の平清盛の西八条第推定地がある。

また当該地の東方にある梅小路機関区内においては、平成4年2月に当センターが試掘調査を行い、平安京内で初めて明確な地輪を伴う古墳を発見している。

## 2. 遺構

当該地は平安京の条坊である小路の交差点付近であるが、敷地西半の半分に金網のフェンスがあり、また中央にはT字形に路地が残っていることから、調査区を敷地の南方部に絞って、八条坊門小路及び北側溝(東西)の検出を目指して南北トレンチを設けた。

調査を行った結果、敷地南限(道路北端)から北へ約5m、地表下70~80cm付近から北へ下がる溝跡(溝1)を検出した。

この溝跡は、断面U字形で上端の幅は約3m、深さは約1m(地表面から1.7m)あり、東西方向の溝と考えられる。

また溝内からは瓦類や平安時代前期頃の土器類(土師器・須恵器・緑釉陶器)などの遺物が出土したことから、条坊に関係した遺構と判断した。

この溝1から北方は、溝北肩部から北へ1.4m付近で一段高くなり、さらに北3.8mの地表下約80cmで、幅30~41cm、深さ17~22cmの細い東西溝跡(溝2)を検出した。

溝内からは南方の溝と同じ時期の遺物少量を検出したことから、これも条坊に關係する遺構と判断した。

また溝2の北方からは柱穴とみられるピットを1箇所検出し、付近に掘立柱建物の存在する可能性がある。

溝1の下層からは、平安京造営前の地形の名残とみられる時期不明の流路を発見した。

狭いトレンチ内の遺構検出のため明確ではないが、地表下約2mのところから検出した流路跡は、ベースの砂礫を切って流れていた痕跡を残し、溝肩はさらに北西へ下がる傾向を示しているが、対岸の溝肩については不明である。

この下層の溝跡は断面観察から判断して、北東から南西方向へ流れていたものとみられ、時期は不明であるが、溝内の堆積状況は灰色の最下層が緑灰色シルト層、その上が暗緑灰色粘土・そして明黄褐色粘質土となっており、当初は流路であったものが、次第に池状となって粘質土が堆積していったものと考えられる。

### 3. 遺物

遺物はほとんどが溝1から出土したものである。

平安時代の布目瓦のほか、土師器・須恵器・黒色土器・灰釉陶器など土器類がある。

瓦類はほとんどが平・丸瓦破片で、明確な時期は不明である。

土器類の中で土師器は、杯の外側ケズリ手法を主体とした平安時代前期のI期(中・新)から、口縁がS字を呈するIII期(中・新)ころまでのものがみられ、平安時代前期にあたる9世紀前半から10世紀前半頃のものと考えられる。

そのほか土師器類では甕の破片がいくつか含まれる。

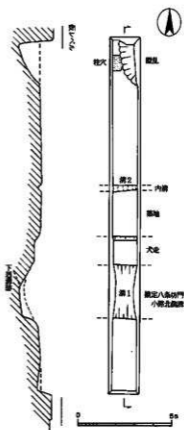


図20 調査平・断面略測図



図21 溝1の東壁土層図

また須恵器は杯や甕の小破片や、灰釉陶器・黒色土器の細片もあり、いずれも平安時代前期頃のものと同推測される。

#### 4. まとめ

溝1については、トレンチを設けた場所の遺構残存状況が複雑であったため、平安時代の溝底部分はまだ一つはっきりしない結果となった。

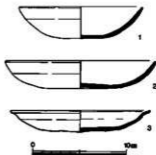


図22 遺物（土師器）実測図（1/4）

しかしこの溝1は、幅が3mもある立派なもので、溝内から出土した遺物も平安時代前期のものが主流である。

この結果、溝1と3.8m北方にある溝2は、今のところ八条坊門小路の北側溝及び邸宅内内溝を検出したものと考えている。よって溝1から溝2までの間は犬走及び築地が存在していた可能性がある。

しかし、溝1は平安京復元モデルから若干北へずれる傾向にあり、検出遺構が平安京条坊に伴う溝及び築地遺構と確定するには至っていない。

また邸宅内とみられる場所からは、1箇所ではあるが柱穴らしいピットを検出しており、この付近に掘立柱建物が存在した可能性がある。

今回の調査では、南北1本のトレンチ（南北20m弱、幅1.3m）の成果であり、敷地全体の埋蔵文化財の残存状況は不詳であるが、部分的な調査であっても遺構の残存状況が極めて良好であることが判明した。

当該地は、遷都前には流路または池状湿地であったが、平安京造営当初頃から整地、宅地化されて人々の生活の痕跡が残されていることが明らかとなった。

敷地の全面的な調査が可能であれば、平安京条坊の交差点部及び邸宅を明確にする貴重な成果を期待できることは明らかである。

今回の試掘調査は、敷地内の遺構残存状況確認のための事前調査として実施したが、当該地における土木工事計画は今未定であり、遺構保存のため基礎の浅い木造家屋建設計画などへの変更を期待したい。

(梶川敏夫)





写真14 トレンチ全景（北から）



写真15 トレンチ南方東西溝跡（南から）



写真16 東西溝（溝1）跡の底部（南から）



写真17 東西溝（溝2）跡（東から）

## V 常盤東ノ町古墳群 No.10

### 1. 調査経過

調査地は、京都市右京区常盤東ノ町16-5に所在する畑地で、その地形は、北西から南東に向かって緩やかに傾斜している。この地にマンション建設が計画されたため、平成5年3月25日に試掘調査を行った。

調査は、東西方向のトレンチ（約38m）を1箇所設定して行った。その結果、中世の土壇1基、平安時代の土壇1基、古墳時代の溝状遺構などを検出した。また、マンション計画地以外の敷地内で、古墳の石室石材と思われる石を発見した。

### 2. 遺構・遺物

調査地の基本層序は、耕土・床土の下に平安時代の遺物を含む黒褐色粘質土（厚さ0.2m）が堆積し、G L-0.64mで地山のオリーブ黄色粘質土になる。



図23 調査地位置図 (1/5,000)

発見した主な遺構には、土壙1・2・SX3（溝状遺構）がある。

**土壙1** 平面形は、長軸1.4m、短軸0.8mの楕円形を呈し、深さは0.5mを測る。土壙の底からは、土師器（皿・ミニチュア羽釜）・古銭などが出土した。古銭（図25）は、すべて宋銭で「政和通宝」・「皇宋通宝」・「開元通宝」・「元豊通宝」などがあり、かなり腐食した状態で出土した。この土壙は、鎌倉時代頃と考えられ、墓の可能性が高い。

**土壙2** 平面形は、直径0.5mの円形で、深さは0.2mの小規模な土壙である。埋土内からは、平安時代の土師器の細片が出土した。

**SX3** 南北方向の浅い溝状の遺構である。幅は4.3m、深さは0.2mあり、北へ向かって次第に浅くなる。埋土内からは、須恵器（図26）蓋・杯・脚付長頸壺などが出土した。蓋は、口径14.0cm、器高3.4cmあり、天井部を扁平に仕上げている。天井部と口縁部との境は不明瞭で、天井部はへラケズリを施す。焼成の状態はやや不良で、色調は淡灰色を呈する。杯は、口径13.0cm、器高3.7cmあり、たちあがりは内傾している。底部は、へラケズリを施す。焼成状態は、蓋と同じである。脚付長頸壺は、口径10.2cm、器高22.2cm、脚部径14.0cmを測る。頸部は直線的に外傾し、肩部はやや扁平、体部は丸味を帯び、体部下半はへラケズリを施す。脚部は二段に屈曲し、上半は外反し、下半は内湾気味に強く踏ん張り、三方に透かしを設ける。焼成状態は良好で、色調は灰白色を呈する。

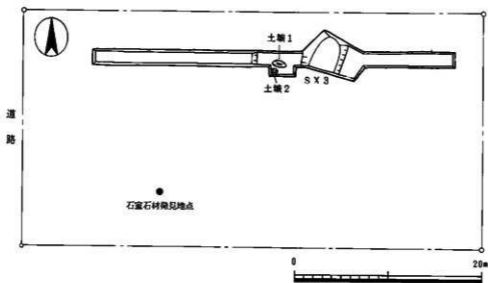


図24 遺構実測図 (1/400)

### 3. まとめ

当該地の北東部に位置する「京都きもの会館」建設に先立つ発掘調査では、古墳3基、中近世の土塙墓42基などが発見されている。本調査で発見したSX3は、古墳の周溝の可能性もあるが、確証は得られなかった。土塙1については、墓の可能性が高いと思われる。また、敷地の南西よりの所で地表面から僅かに露出しているチャート質の岩石（90cm角）を発見した。周辺をボーリング・ステッキで探査したが、それに続く石は発見出来なかった。これも古墳の石室石材と考えるのが妥当であろう。これらのことから当該敷地には、古墳群及び中近世の墓域の存在が予想される。

(長谷川行孝)



図25 古銭拓影 (1/2)



写真18 SX3 全景（北東から）

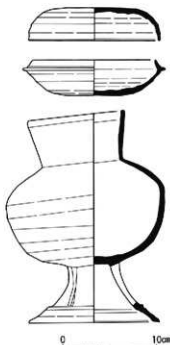


図26 土器実測図 (1/4)

## VI 名勝 龍安寺庭園 No.53

### 1. 調査経過

調査地は、京都市右京区龍安寺御陵下町の龍安寺境内に在る鏡容池である。

この調査は、龍安寺から申請のあった現状変更（池堤補強工事）を受けて、文化庁からの指示に基づいて京都市が実施したもので、文化財保護課及び埋蔵文化財調査センターの技師がこれにあたった。

調査は、池の水を大半抜き取った後の7月21日に鏡容池の南西隅部（1トレンチ）の調査を行い、さらに8月6日に池の南東隅部（2トレンチ）で調査を実施した。また、8月7日には、2トレンチの補足調査を行った。

1トレンチでは堤の地業跡、2トレンチでは池の排水施設である木樋をそれぞれ検出したが、これらの遺構については、京都府と協議の後に現状保存の措置をとった。



図27 調査地位置図 (1/5,000)

## 2. 遺構・遺物

1トレンチ (幅1.2m・長さ12.5m) 鏡容池の南西隅部の護岸施設近くの池内に設定したトレンチである。

基本層序は、現在の池底に敷いてある砂利層の下に、時期は特定できないが粘質土の盛土が厚さ1mほど堆積する。この盛土の下には、人頭大から拳大の川原石を積み上げた地業跡が存在する。

発見した主な遺構には、上記の地業跡がある。この地業跡は、トレンチのほぼ全域に存在することをボーリング・ステッキによって確認したが、本調査ではトレンチの東端から約2mの範囲内のみ地業跡の石積みを露出させ調査を行った。地業跡の積み上げ高さは、遺構を完全に断ち割っていないので明らかでないが、20~30cm程度の川原石を黒褐色粘土を用いて固定し、3段以上積み上げていることを確認した。地業跡は堤に向かって次第に高く積み上げられているように観察できることから、堤を築造する時の基礎工事と考えられる。地業の検出面の標高は、約53.1mで、堤の上端からこの地業面までは3.2mの落差がある。

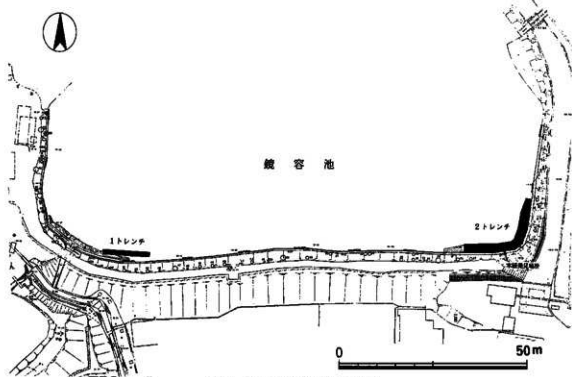


図28 トレンチ位置図 (1/1,000)

遺物は、地業跡内から平安時代後期の土師器皿の破片が2点出土した。なお、現在の池底の砂利層には、平安時代と思われる瓦片が多数混入していた。

2トレンチ（幅2.2m・長さ27.4m）鏡容池の南東隅部の護岸施設近くの池内にL字形に設定したトレンチである。

基本層序は、上から明オリブ砂（現池底）・褐灰色腐植土・灰色砂・黒褐色腐植土（室町時代前期）・明緑灰色粘質土（平安時代後期）・黒褐色腐植土（平安時代後期）・明緑灰色粘質土（地山）で、腐植土と粘質土もしくは砂が交互に堆積しており、現池底から地山面

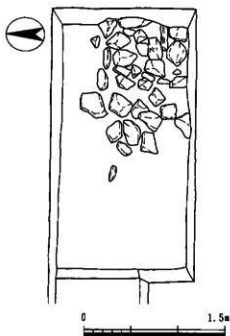
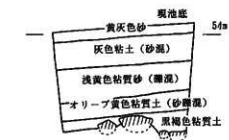


図29 1トレンチ東端部平面図・  
東壁土層図 (1/40)

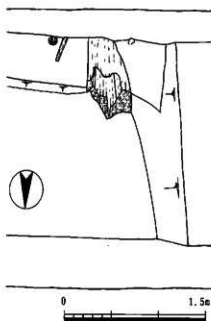
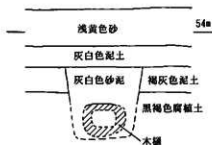


図30 2トレンチ木礎平面図・  
南壁土層図 (1/40)

まで約1mある。この場所では、1トレンチで発見した堤築造のための地業跡などの遺構は認められなかった。

発見した主な遺構は、池の水を排水するための木樋がある。木樋を発見した位置は、L字形のトレンチの曲がり角付近、すなわち堤の南東隅部に近いところで、室町時代前期の腐植土の上に堆積する褐灰色泥土を掘り込んで掘えられている。木樋の検出面は標高53.06m、直径45cm程度の丸太材の中をくり抜いて（縦15cm・横20cm）造られ、堤の端から85cmほどを検出したにとどまり、大半は堤の中に埋もれている。木樋の先端部分、水の取入れ口付近の施設の有無については、明らかにしなかった。

出土遺物には、土師器皿類・瓦類がある。皿1は、いわゆる「へそ皿」で黒褐色腐植土から、皿2は、明緑灰色粘質土からそれぞれ出土した。また、図示しない平安時代後期の土師器皿類が最下層の黒褐色腐植土から出土した。

瓦類は室町時代の黒褐色腐植土層から出土したものが大半を占め、この腐植土層から出土した瓦類には、丸瓦・平瓦・軒平瓦があり、すべて平安時代の瓦である。

図示した唐草文軒平瓦3点の内、1・2は上記の黒褐色腐植土からの出土で、同一個体と思われる。また3は、明緑灰色粘質土からの出土であるが、1・2と同范の可能性が高いと思われる。これらの軒平瓦の特徴は、まず瓦当文様では、唐草が丸く巻き込み、内外区を分ける圏線は在るが、珠文がないこと。製作技法では、顎部の断面が緩やかな曲線顎を呈し、瓦当部整形の時、平瓦凸面の接合面にカキ傷を入れて接着をよくしていること。さらに調整は、削りの後ナデ調整を施している。

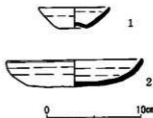


図31 土器実測図 (1/4)

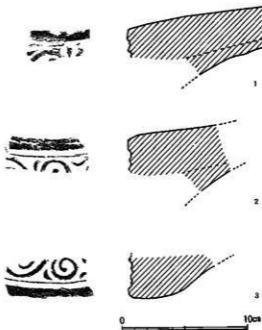


図32 軒平瓦拓影・実測図 (1/3)



胎土は緻密で白色の砂粒を含み、焼成は硬質である。これらの特徴から京都産の瓦とは考えにくく地方からの搬入瓦と推測される。瓦の年代については、平安時代の中～後期の範疇に納まると考えられる。

### 3. まとめ

鏡容池は、円融天皇の御願によって造営された円融寺（983年）の園池あるいは、その後、平安時代末期に藤原実能が造営した徳大寺の園池とも言われ造営時期は明らかでない。今回この池の中を2箇所調査したことでわかったことについてまとめてみる。

池の南西隅部付近を調査した1トレンチでは、堤の基礎工事と考えられる地業跡を発見した。この地業跡の年代は出土した土師器から平安時代後期と思われる。この地業跡の上に堆積する土には、腐植土や泥土等の池内堆積層が全く認められないことから、ここが水に浸かるのは、現在の池底が造られてからのことで、それ以前においては堤の一部であった可能性がある。

池の南東隅部を調査した2トレンチでは、池内堆積である腐植土を3層確認した。それぞれの腐植土層の間には、粘質土や砂層が挟まれていることは、池の改修が行われたことを意味し、改修の度に池底が次第に上がっていったことになる。池の改修時期は、最下層の腐植土を埋め立てたのが平安時代後期ごろ（第一期埋め立て）、中間の腐植土を埋め立てたのが室町時代前期以降（第二期埋め立て）、最上部の腐植土を埋め立てたのは現在の池底が造られた時（第三期埋め立て（時期不明））である。これらの埋め立て時期を鏡容池の歴史に照らし合わせるなら第一期が徳大寺造営、第二期が龍安寺造営に当てることが可能である。第一期埋め立て以前の池については、円融寺の時期を想定することが出来るが、その時期を示す土器類が池内から出土していないので確たることは言えない。

池の南東隅部付近で発見した排水木種は、それが設置された年代を特定することは出来なかったが、層位から室町時代以降に設けられたことが判明した。現在、池水は池の南西隅から排水され、「西ノ川」となって南流していることから、池水の排水はあくまでも池の南西隅が主であり、今回発見された排水施設は補助的なものと思われる。

（長谷川行孝）



写真19 1トレンチ全景（西から）



写真20 1トレンチ東端部地業検出状況（東から）



写真21 2トレンチ木種検出状況（北から）



写真22 2トレンチ木種詳細（北から）

## VII 中久世遺跡 No.80

### 1. 調査経過

調査地は、京都市南区久世中久世2丁目110、117の水田である。当該地にマンション建設が計画されたため、稲の収穫が終わった平成5年10月18日に試掘調査を実施した。

調査は、東西方向のトレンチを2箇所設定して行った。その結果、北側に設けたトレンチ（1トレンチ）の東端で溝の一部を発見したため、その付近を拡張して溝の調査を行った。この溝以外に顕著な遺構は発見出来なかった。

### 2. 遺構・遺物

調査地は、耕土下に褐色粘質土が厚く堆積し、この褐色粘質土上面が遺構検出面となる。発見した遺構は、既述の溝のみである。

溝は、幅約1m、深さ0.4~0.5m、全長約5mの規模を持つ。溝の方向は北から南西に

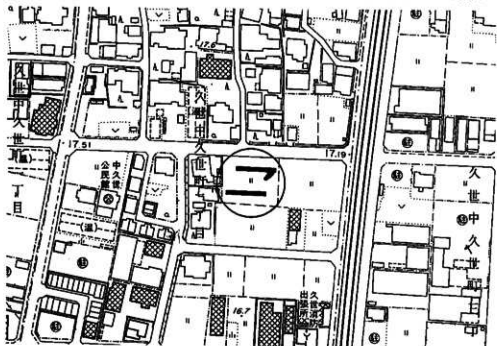


図33 調査地位置図 (1/2,500)

向かい、溝の断面形はV字形を呈する。溝内堆積土は黒褐色粘質土で、弥生時代中期の壺・台付鉢などが出土した。

台付鉢（図34）は、口径11.2cm、器高9.2cm、脚台部径6.8cmを測る。口縁部には2箇所  
の紐穴を穿ち、凹線文を引いている。体部から底部にかけては丸く仕上げ、体部外面に4  
条の凹線文を施している。脚台部には、六方に透かしを設け、端部に3条の凹線文を配す  
る。全体の細かな調整については、表面が磨滅しているため不明である。

### 3. まとめ

今回発見した溝は、人工的な溝と考えられるが、その性  
格については、判然とし得なかった。中久世遺跡内には、  
幾筋もの自然流路が北西から南東方向に向かって流れていた  
ことが過去の調査で判明しており、当調査地の南方でも  
流路跡を発見している。しかし、当該地においては流路跡  
は発見出来ず、微高地であったと考えられ、周辺に集落の  
存在する可能性がある。

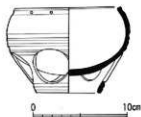


図34 土器実測図 (1/4)



写真23 溝全景（北東から）

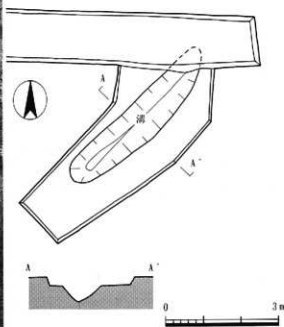


図35 遺構実測図 (1/100)

## VIII 長岡京左京四条三坊跡 No.88

### 1. 調査経過

試掘調査場所は、京都市伏見区羽東師菱川町60番地で、京都市立神川中学校西側にある南北道路を挟んだ西側の東西に長い水田である。

調査地は長岡京左京四条三・四坊に該当し、付近における既往の調査結果から、敷地の中央付近を南北に東三坊大路（幅8丈…約24m）が通り、その大路を挟んで西が三坊、東が四坊となる場所に当る。

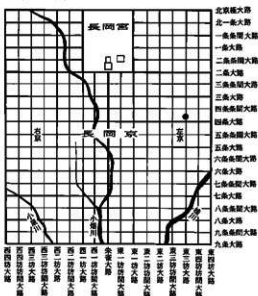


図36 長岡京条坊図 (調査位置)

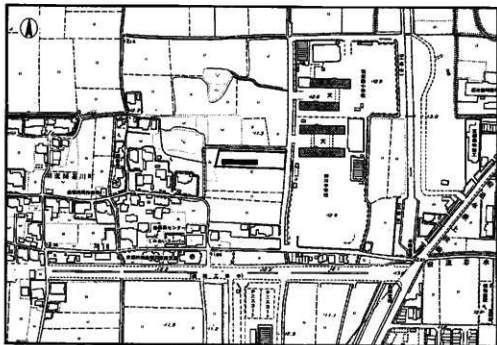


図37 調査地位置図 (1/5,000)

神川中学校及びその北にある羽東師小学校は、新設される前の昭和51年12月から翌52年4月にわたって(財)京都市埋蔵文化財研究所によって発掘調査が行われ、長岡京期の掘立柱建物・柵・溝跡などの遺構が多数検出されている。<sup>1)</sup>

また長岡京左京の東三坊大路跡は、昭和55年から行われた外環状街路建設に伴う事前調査で東側溝跡が検出され、また昭和58年2～3月に行なわれた、今回の調査地のすぐ南方に当たる菱川町49番地の宅地開発に伴う事前発掘調査では、長岡京期の建物・柵・土壇・柱穴跡などのほかに東三坊大路の東西両側溝跡が確認されている。<sup>2)</sup>

また同年、西羽東師川改修工事に伴って羽東師小学校北西で行われた発掘調査でも、同じく東三坊大路の両側溝跡が検出されている。<sup>3)</sup>

なお試掘調査を行った付近においては、長岡京期遺構面の下層から古墳・弥生・縄文など各時代の遺構・遺物も見つかっている。

## 2. 遺 構

試掘調査は平成5年12月6日に実施した。

場所は東西約90m、南北23m(2,079.98㎡)の細長い稲刈りの終わった水田で、計画建物は敷地西半の南寄りに予定されているため、それに合わせて西寄りに幅1.9m、東西50mにわたってトレンチを設けて調査を行った。

調査の結果、トレンチ中央やや西寄りの地表下約50cmから南北溝跡を検出、既往の調査結果を含めて精査を行った結果、長岡京左京の東三坊大路西側の側溝であることが明らか

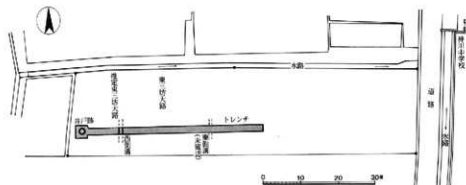


図38 調査トレンチ位置図

となった。

溝跡の幅は1.2m、深さ0.2mほどで、東側の神川中学校西側の道路西端から溝跡中心までの距離は77.87mであった。

一方、この溝より東へ約8丈(24m)にある東側溝についても推定地付近を精査し、断面観察を行ったが、既に水田耕作によって削平されたものが検出には至らなかった。(図38)

そのほか敷地の西端(トレンチ西端)地表下40cmから井戸跡1基を検出した。(図40)

井戸の規模は、上部直径0.87m、底直径0.62m、残存深さ0.58mと小さなもので、内部からは木枠や曲物などは見つからなかったが、中に堆積した灰色泥土から平安時代後期とみられる瓦器(碗…完形を含む)・土師器(杯)のほか、高い高台を有する土師質の白色系土器(皿)などが出土した。

そのほか、トレンチ内では長岡京期遺構検出面をさらに掘り下げ、下層遺構の検出に努めたが発見には至っていない。

### 3. 遺物

出土遺物は、トレンチ西端で検出した井戸跡内から出土した一括資料がある。

土師器(杯) 1～6…1～3の3点はほぼ同じ大きさの杯で「小」の部類に属する。4、5は器形はやや異なるが「中」の部類に入る土師器である。6は「大」の分類に入る完形の杯で1個体分しかない。

土師器(皿) 7・8…2個体分が出土。祭祀系遺物である白色系土器で、皿面に対して高台が異常に高い特徴を持ち、同じタイプのものが鳥羽離宮跡からも出土している。胎土は細かい良質の精練された土で作られている。

瓦器(碗)…3個体分が出土、瓦器表面には土中の鉄分が付着している。口径15cm前後で器高は5.5cmほど、底部はやや粗雑な作り方である。

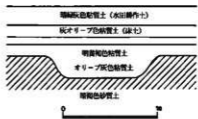


図39 トレンチ中央北壁土層図

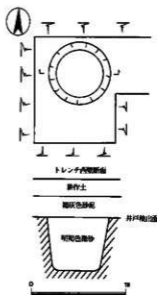


図40 井戸跡・断面略測図

#### 4. まとめ

井戸跡から出土した土器の個体数をみると、瓦器碗3個、土師器は杯6個（大1・中2・小3）、白色土器の皿2個となり、碗・杯・皿が同時期のセット関係になるものと考えられる。

検出した井戸跡は小規模なもので、出土した土器以外に遺物はほとんどなく、何等かの事情で一括して土器を井戸内に投棄した可能性がある。

平安時代後期頃、この辺りに居を構えていた住人が、井戸の湧水を願ってか、あるいは鹿絶に伴い、祭祀的な意味で土器を一括して井戸に鎮めたものと考えられる。

そのほか検出した東三坊大路西側溝跡は、検出深さが地表下0.5mと浅く、また溝の深さも20cm前後である。

これは地目を水田に改作する時点か耕作時に、遺構面がある程度削平されてしまった可能性を示唆しており、今回、東三坊大路東側溝が確認できなかった意味も理解される。

(梶川敏夫)

#### 註

- 1) 梅川光隆『長岡京跡発掘調査報告』京都市埋蔵文化財研究所調査報告-II、1978年2月
- 2) 平田 泰・本 弥八郎「左京四条四坊 羽東師遺跡」昭和57年度『京都市埋蔵文化財調査概要』京都市埋蔵文化財研究所編、1984年3月
- 3) 鈴木廣司・長宗繁一「左京三条三・四坊」昭和58年『京都市埋蔵文化財調査概要』京都市埋蔵文化財研究所編、1985年3月

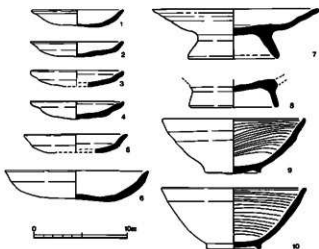


図41 遺物実測図





写真24 調査前写真（東から）



写真25 トレンチ全景（西から）



写真26 西方で検出した井戸跡（南から）



写真27 井戸完掘状況写真（北西から）

## 試掘調査一覧表

### I 平成4年度 1～3月期

#### 平安宮

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	番号
中 番 省	上・丸太町通智恵光院西入中番町933	2/8	GL-0.3mで平安時代の遺物包含層を検出。発掘調査を指導する。	1

#### 平安京右京

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	番号
一条西坊十五町	右・花園大藏町4-1	3/15	表土下で近世の妙心寺塔頭跡を検出する。発掘調査を指導する。	2
六条三坊十三町	右・西院六反田町45、46	2/9	GL-1.26m以下、溜地状堆積。	3
六条四坊九町	右・西院月友町13	3/29	検出できず。	4
七条三坊四町	下・西七条北月説町65-2	1/18	検出できず。	5
八条二坊十三町	下・御所ノ内本町37	3/4	GL-0.6-1mで道祖大踏路面を検出する。	6
八条四坊四町	南・当祥院西ノ庄向田町26	3/11	桂川の氾濫堆積。	7

#### 平安京左京

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	番号
三条四坊十四町	中・寺町通御地下の二本籠寺前町507、508	1/11	GL-1.5mまで近代から近世の遺物包含層。以下砂層。	8

#### 太秦地区

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	番号
広隆寺境内	右・太秦轉町36-4	1/20	GL-0.35mで平安時代以前の柱穴・土塊等を検出する。発掘調査を指導する。	9
常盤東ノ町 古墳群	右・常盤東ノ町16-5	3/25	GL-0.64mで溝状遺構（古墳時代）・土壇2基（平安時代・鎌倉時代）を検出する。	10

#### 洛北地区

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	番号
北 野 遺 跡	北・平野島居前町89	2/15	検出できず。	11

## 洛東地区

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	番号
中臣遺跡	山・東野高野町10-2	3/9	検出できず。	12

## 鳥羽地区

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	番号
鳥羽離宮跡	伏・竹田浄菩提院町57	3/1	GL-1.8mで池跡を検出する。	13
鳥羽離宮跡	伏・竹田内畑町95-7	3/17	GL-0.7-0.9mで池状遺構。	14

## 南・桂地区

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	番号
播西古墳群	西・大杖東長町1-212	1/6	検出できず。	15

## 長岡京地区

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	番号
長岡京跡	南・久世殿城町330-1	1/25	GL-1.2mで時期不明の溝を検出する。	16
長岡京跡	伏・羽東師斐川町193地	1/13	GL-0.9-1.48m以下、流れ堆積。	17
長岡京跡	伏・久我森ノ宮町14-13他	1/19	検出できず。	18
長岡京跡	伏・羽東師斐川町490-3	1/27	検出できず。	19
長岡京跡	伏・羽東師斐川町246-1	2/1	検出できず。	20
長岡京跡	伏・羽東師斐川町14	2/3	検出できず。	21

## II 平成5年度 4～12月期

### 平安宮

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	番号
主水司	上・智恵光院通丸太町南入	4/30	GL-1mで褐色粘質土。大半は近代の擾乱。	22
大藏・聚楽第跡	上・中立光通淨福寺東入新例屋町415地	7/26	GL-0.7mで砂礫層。検出できず。	23
内裏・聚楽第跡	上・出水通土屋町東入東神明町272	8/4	GL-1.75mまで近世の盛土。遺構は検出できず。	24
大宿直・聚楽第跡	上・裏門通中立亮下る高台院壱町210	11/4	西から東への落ち込み状遺構（聚楽第の堀か）を確認する。埋土内から平安時代前期の土器が出土。	25
審松原	中・聚楽西町62	10/12	GL-0.6mで黄褐色粘質土。検出できず。	26
兵部省	中・西ノ京内畑町27	10/14	GL-0.8mで平安時代の南北溝1条を検出する。	27
朝堂院	中・聚楽通東町20	10/19	GL-0.5mで東西方向の溝及び礎石（近世?）を検出する。	28

平安京右京

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	番号
二条三坊十一町 中 御門大路	中・西ノ京小堀池町5-2 右・太秦安井車道町19-33, 34	5/12	G L-0.9mで平安時代の溝を検出する。	29
		5/17	G L-0.55mで推定中御門大路南側溝を検出する。	30
三条一坊十三町	中・西ノ京東月光町8-2	5/7	G L-0.96~1.33m以下、平安時代の池・湿地状遺構を検出。	31
三条二坊十一町	中・西ノ京下合町41	10/20	G L-0.8mで平安時代の礎敷き遺構及び池跡を検出する。発掘調査を指導する。	32
三条四坊二町	右・山ノ内御堂殿町7-1	9/10	検出できず。	33
四条四坊三町	右・山ノ内藤戸畑町35-1他	9/9	G L-0.95mで平安時代の南北溝を検出する。	34
四条四坊五町	右・西院四条畑町30-1他	10/6	G L-1.3m以下、湿地状遺構。	35
五条三坊十一町	右・西院久田町21-1	6/21	G L-0.22mで旧天神川の氾濫堆積、G L-0.96m以下、池または窪地状遺構。	36
五条四坊五町	右・西院月取町18	9/20	1 T : G L-1.4mで弥生~古墳時代の遺物包含層G L-1.5mで南北溝を検出する。2, 3 T : G L-1.2m以下、池状遺構。設計変更を指導する。	37
六条四坊十五町	右・西京極高野町38他	8/30	検出できず。	38
七条二坊三町	下・西七条市部町116	5/6	検出できず。	39
七条二坊十町	下・西七条西石ヶ坪町38-1, 2	10/13	G L-0.8mで西堀川小路西側溝(推定)を検出する。	40
七条三坊十五町	右・西京極町ノ坪町28, 29	5/11	G L-0.5mで平安時代の土壇状遺構3基。	41
八条一坊十町	下・西七条西久保町58	12/13	G L-0.7mで八条坊門小路北側溝及び内溝を検出する。	42
八条二坊十一町	下・七条御所ノ内中町	7/1-6	G L-0.6mで平安時代前期の遺物包含層を検出。発掘調査を指導する。	43
八条二坊十三町	下・七条御所ノ内本町37	6/3	G L-0.8mで推定佐井大路東側溝を検出する。設計変更を指導する。	44
九条三坊七町	南・吉祥院西ノ庄中町38-1他	9/21	桂川の氾濫堆積のみ。	45

平安京左京

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	番号
二条三坊八町	上・橋木町通衣箱西今瀬屋町328他	5/19	G L-1.36mで室町時代の池、堀状遺構を検出する。	46
三条二坊十町	中・押堀町地先	11/10	G L-0.75mで平安時代の護岸施設を持つ堀川東府部を検出する。発掘調査を指導する。	47
四条一坊三町	中・壬生御所ノ内町16, 16-2	12/8	G L-0.62mで平安時代の遺物包含層。G L-0.82m以下、平安時代の池状遺構。	48
四条三坊六町	中・新町通錦小路上る百足屋町380他	4/28	G L-0.9m以下、室町時代の整地層。	49
五条二坊十六町	左・西院院四條下る妙法寺701-1, 3, 4	5/24	1 T : G L-0.95mで近世の土壇1基、室町時代の土壇1基、井戸1基を検出する。2 T : G L-0.75mで中世の土壇状遺構7基を検出する。	50
		6/7		

## 太秦地区

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	番号
宮笠仲之町遺跡	右・太秦崎岡町10-4他	5/20	検出できず。	51
広隆寺旧境内	右・太秦桂木町11-1	8/2	平安時代中期の整地層、時期不明の焼土層1基を検出。	52
名勝 龍安寺庭園	右・龍安寺御阪下町13-1	7/21 8/6・7	狹谷池境の地階跡及び排水施設(木樋)を検出する。	53

## 洛北地区

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	番号
植物園北遺跡	左・下鴨南芝町20, 21	9/6	検出できず。	54
植物園北遺跡	北・上賀茂若ヶ畑内町33, 39	9/29	GL-0.8mで褐色粘質土、遺構・遺物は検出できず。	55
北野遺跡	北・平野宮本町7	9/13	GL-0.33mで時期不明の遺物包含層を検出する。	56
北野庭寺跡	北・上白梅町24	10/28	遺構・遺物検出できず。	57

## 北白川地区

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	番号
法勝寺跡	左・岡崎法勝寺町58	5/31	GL-1.84m以下、砂層の地階のみ。	58
尊勝寺跡	左・岡崎最勝寺町13	7/12	GL-1.15mで尊勝寺の整地面を検出する。設計変更を指導する。	59
白河街区跡	左・岡崎東天王町6	8/11	GL-1.7m以下、近代の地階。	60
白河街区跡	左・聖護院内領典町17	9/27	GL-1.32mで落ち込み状遺構(流路?)を検出する。遺土内から平安時代中期の遺物が出土する。	61

## 洛東地区

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	番号
法住寺殿跡	東・今熊野池田町12	12/22	GL-1.0mで近世の南北溝を検出する。	62
大塚遺跡	山・小山北溝町1-1	5/14	GL-0.45mで平安時代の土壇状遺構を検出する。	63
大塚遺跡	山・小山北溝町6-3	9/16	GL-1.1mで時期不明の溝状遺構を検出する。	64
中臣遺跡	山・勧修寺東金ヶ崎25	9/1	GL-2.2m以下、山科川の氾濫堆積。	65
中臣遺跡	山・勧修寺御所ノ内町89	11/15	GL-0.28mで時期不明の東西溝を検出する。	66

## 伏見・醍醐地区

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	番号
伏見城跡	伏・京町1丁目245	6/17	GL-1.2mで旧京町通りの路面及び東側溝を検	67

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	番号
伏見城跡	伏・鶴山町正宗52-2	8/25	出する。 戦地の旧地形が北へ下がる谷地形であることを確認した。	68
伏見城跡	伏・東町212, 212-1	11/8	G L-1mで江戸時代の遺物包含層。G L-1.6mで江戸時代の土層3基を検出する。	69
法界寺旧境内	伏・日野畑出町37-3	8/18	G L-0.6mで中世の遺物包含層を検出。遺構は検出できず。	70

### 鳥羽地区

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	番号
鳥羽離宮跡	伏・中島前山町18	5/10	G L-1.4m以下、古墳時代の包含層？	71
鳥羽離宮跡	伏・竹田浄菩提院町28-2他	6/15	G L-1.22m以下、湖沼または流跡。	72
鳥羽離宮跡	伏・竹田浄菩提院町77-1	8/9	G L-0.5mで掘込地蔵の一部を検出する。	73
鳥羽離宮跡	伏・竹田浄菩提院町34他	11/22	G L-1.8mで溝状遺構を検出する。	74
鳥羽離宮跡	伏・竹田浄菩提院町105-1	11/24	G L-0.78m以下、泥土堆積。	75
下鳥羽遺跡	伏・竹田薬屋町27	9/6	盛土・旧耕土のみを確認する。	76

### 南・桂地区

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	番号
唐橋遺跡	南・唐橋川久保町8	7/29	G L-1.1m以下、砂礫層。検出できず。	77
上久世遺跡	南・久世上久世町355-1他	7/5	検出できず。	78
上久世遺跡	南・久世上久世町334	11/18	G L-0.4mで竪穴住居・柱穴等を検出する。発掘調査を指導する。	79
中久世遺跡	南・久世中久世2丁目110	10/18	G L-0.25mで弥生時代の溝状遺構を検出する。	80
中久世遺跡	南・久世殿城町465	11/1	G L-0.6mで弥生時代から古墳時代の遺物を含む包含層を検出する。	81
中久世遺跡	南・久世中久世町3丁目79, 80	11/17	G L-1.5m以下、湿地状堆積。	82

### 長岡京地区

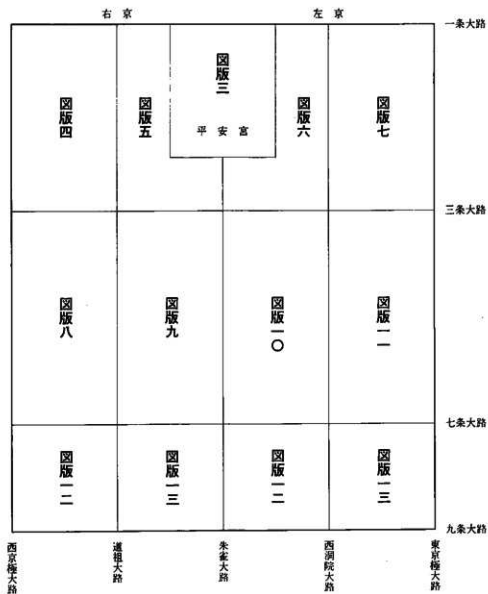
遺跡名	所在地	調査日	調査概要	番号
長岡京跡	南・久世東土川町18-1	6/10	G L-1.82m以下、明黄褐色粘質土の堆積。検出できず。	83
長岡京跡	南・久世築山町460-1	7/29	耕土・床土以下、シルト・砂礫の堆積のみ。	84
長岡京跡	南・久世築山町301-1	10/4	G L-1.25mで時期不明の溝（湿気抜き？）3条を検出する。	85
長岡京跡	伏・羽東師古川町205-4	7/7	G L-1.6m以下、湿地状堆積。	86
長岡京跡	伏・羽東師古川町	10/21	G L-2.6mまで盛土。遺構・遺物検出できず。	87
長岡京跡	伏・羽東師要川町60	12/6	G L-0.4mで東三坊大路西側溝及び平安時代後期の井戸跡を検出する。	88

# 圖 版



# 調査地点位置図

## 平安京図葉分割図



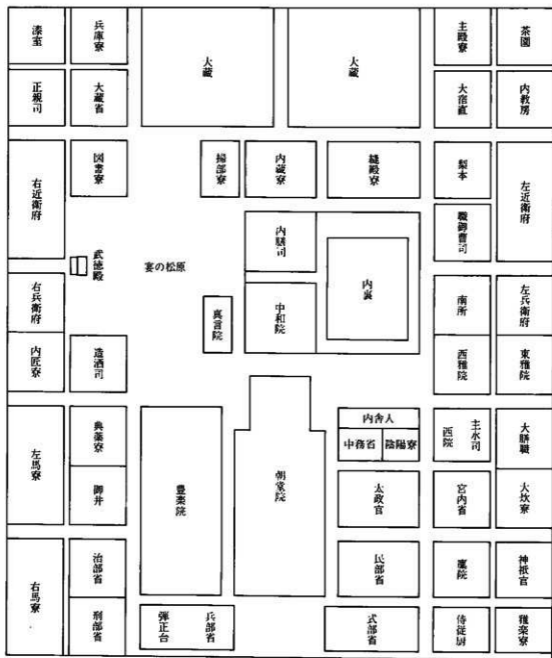
### 凡例

平成5年試掘調査地点

□ 1月～3月

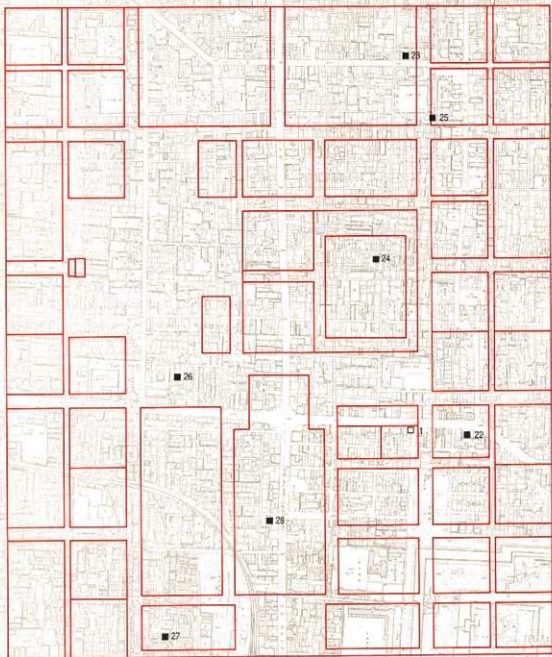
■ 4月～12月

----- 遺跡範囲

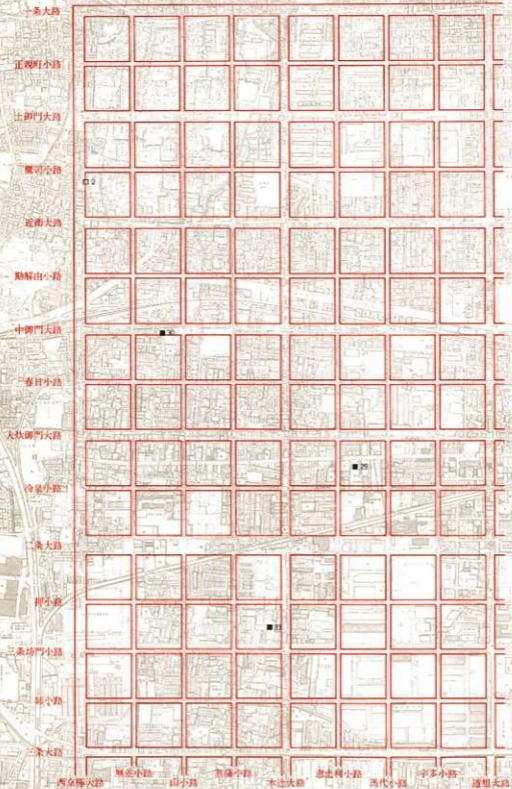


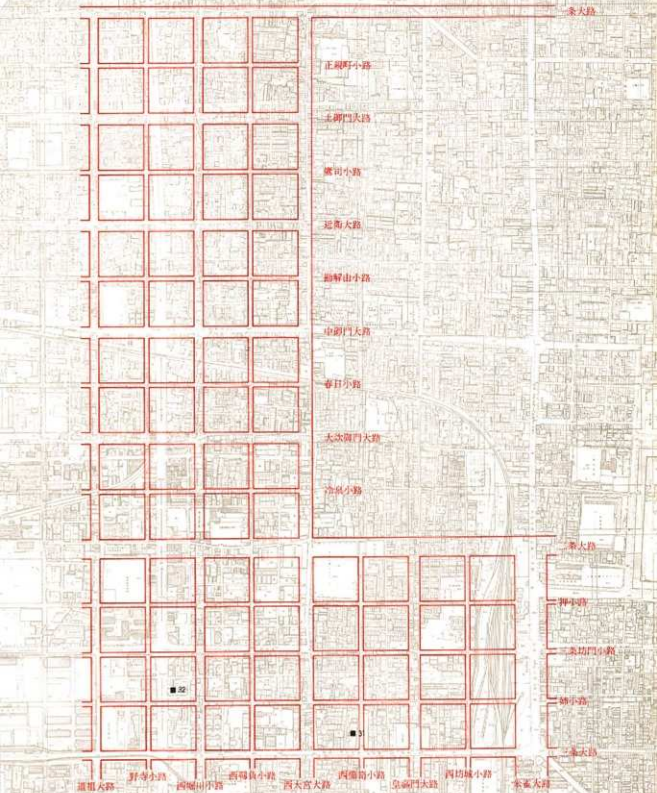
平安宮城概念図

平安宮



白茅北道·二·三条·三·四坊





一桑大路

正親町小路

土御門大路

裏司小路

近衛大路

勘解由小路

中御門大路

春日小路

大炊御門大路

冷泉小路

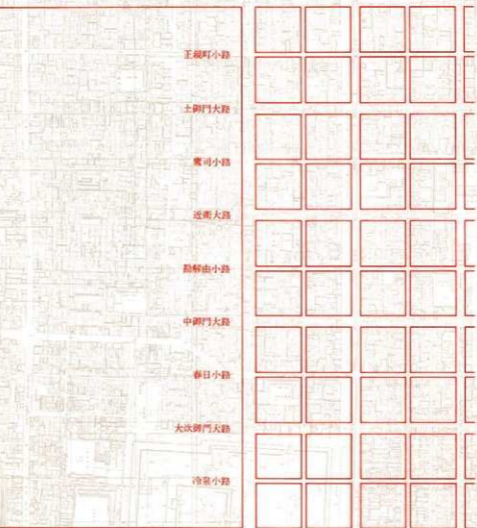
二桑大路

押小路

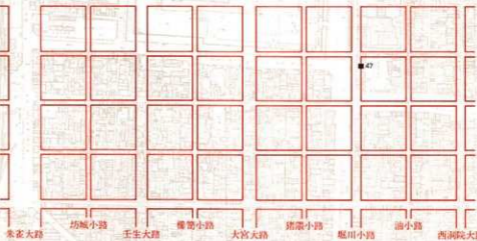
三桑坊門小路

柿小路

三桑大路



■47



東宮大路

坊城小路

壬生大路

權節小路

大宮大路

猪熊小路

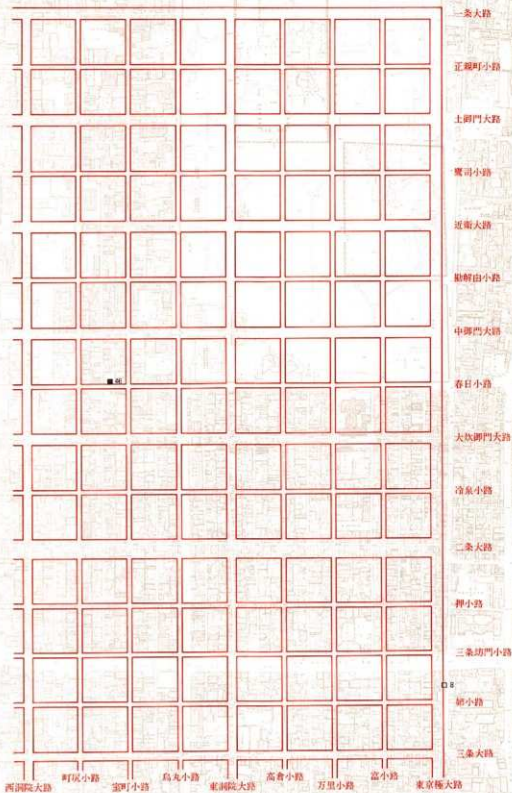
堀川小路

油小路

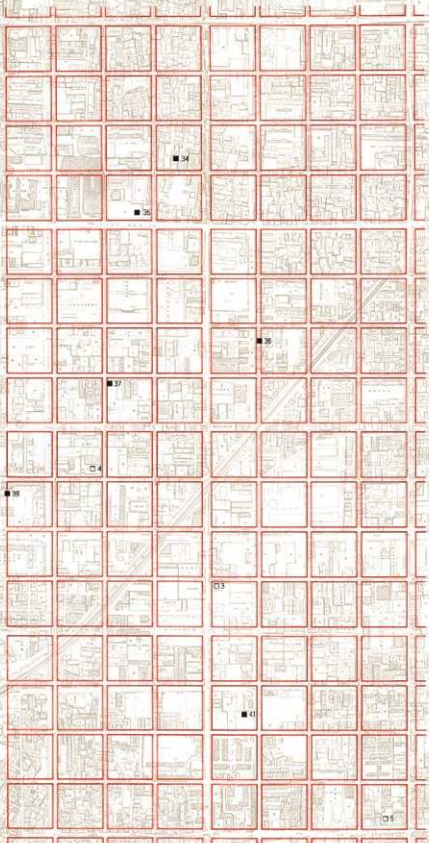
西洞院大路



## 足 京 北 邊 · 一 · 二 · 三 條 三 · 四 坊

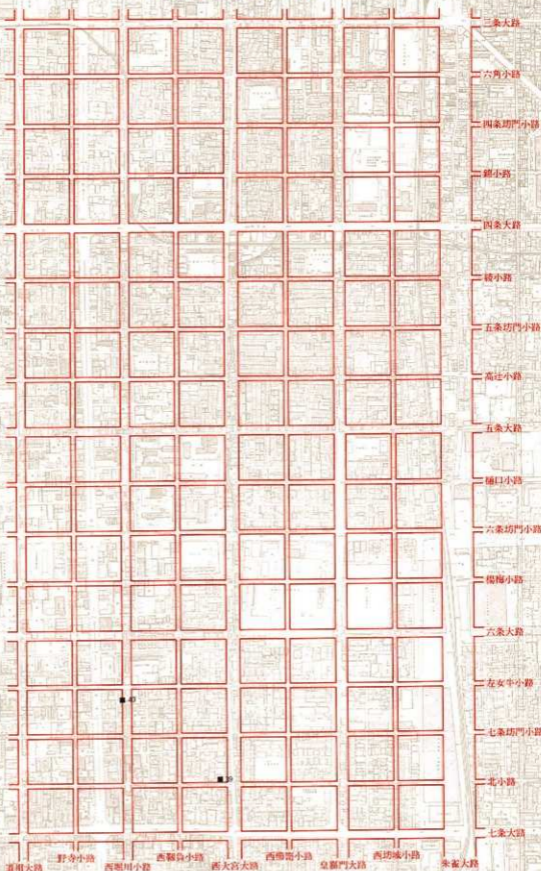


八条大路  
六条小巷  
四条坊門小巷  
神小巷  
四条大路  
二条小巷  
五条坊門小巷  
高江七路  
五条大路  
樋口小巷  
六条坊門小巷  
備後小巷  
六条大路  
左女牛小巷  
七条坊門小巷  
北小巷  
七条大路

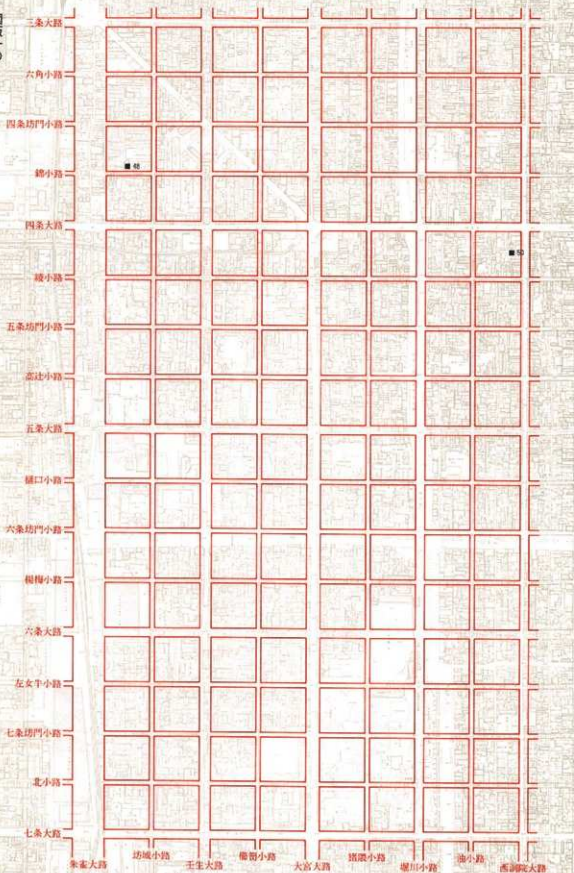


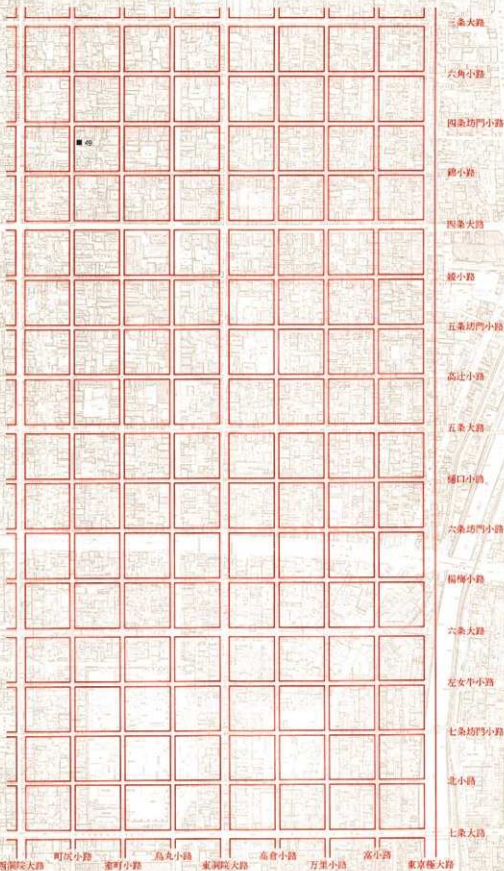
西京隆大路 無差小巷 山小路 高橋小巷 木山大路 惠止利小巷 馬代小路 字多小路 道頓大路



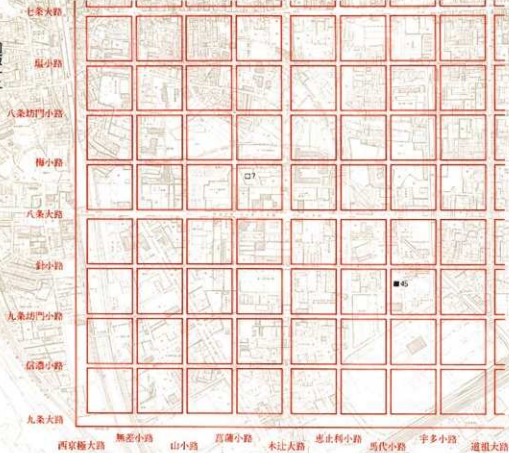


左京 西·五·六·七条 一·三坊

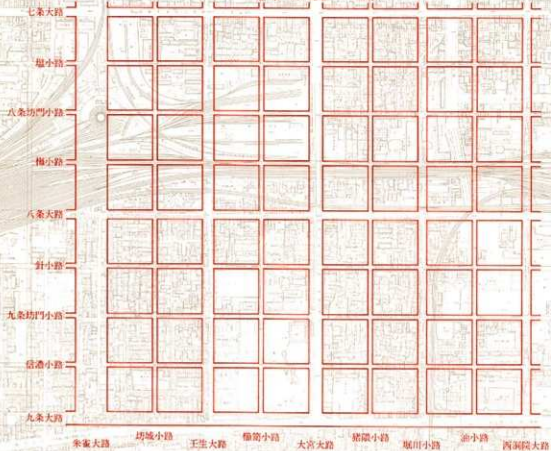




右京 八・九条三・四坊

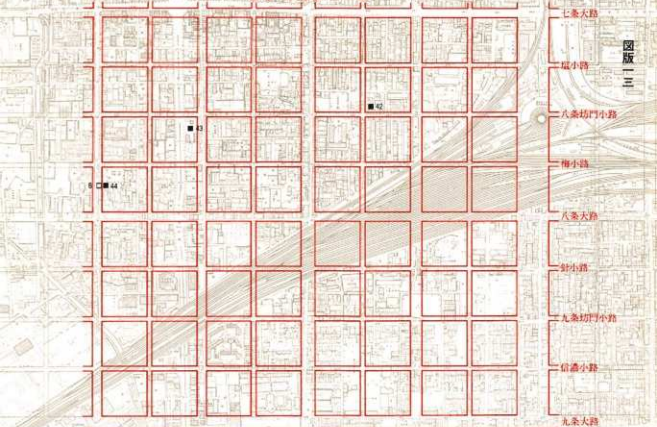


左京 八・九条一・二坊



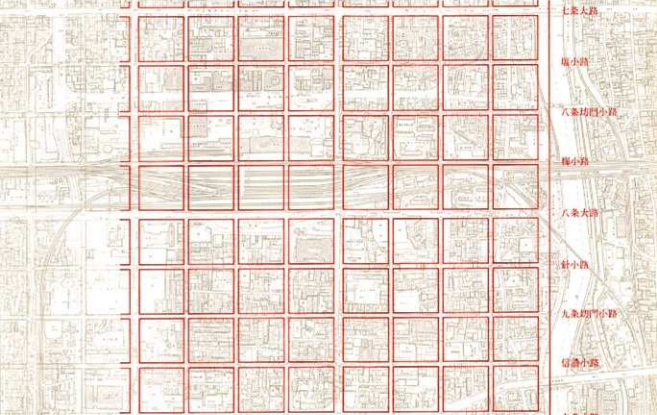


右單八·九條二坊

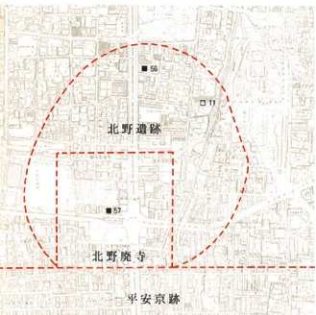


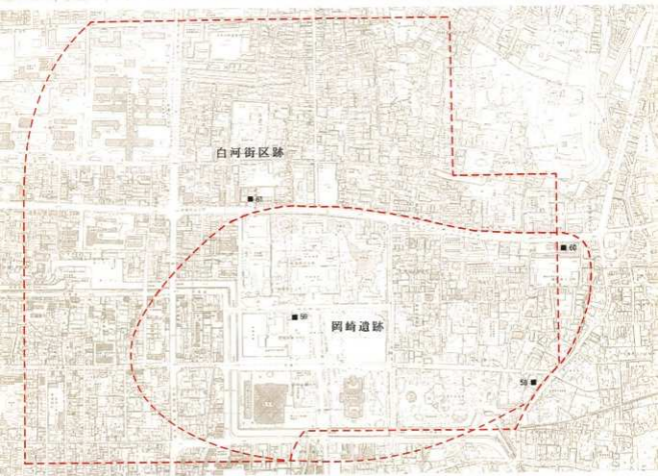
道頓堀大路 野寺小路 西堀川小路 西橋白小路 西橋筋小路 京橋門大路 西坊城小路 朱雀大路

左單八·九條三·四坊



西洞院大路 町屋小路 堀川小路 烏丸小路 東洞院大路 高倉小路 万里小路 富小路 東前橋大路







伏見城跡

■ 69

■ 67

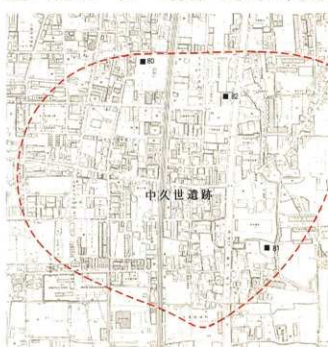
■ 68

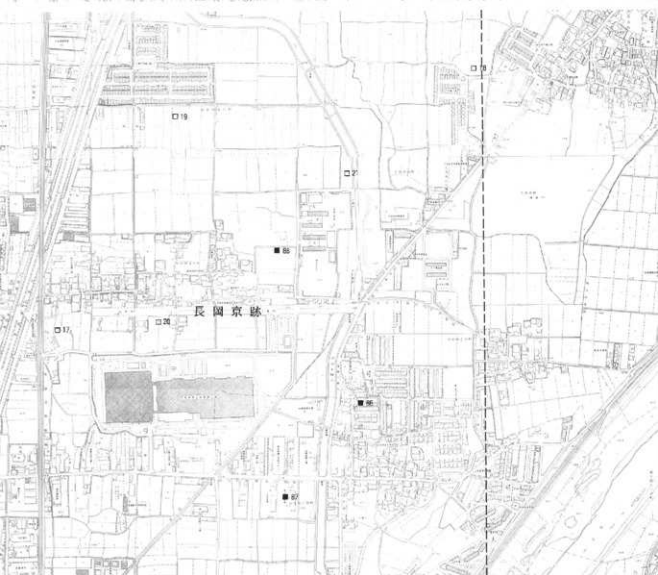




鳥羽離宮跡

下鳥羽遺跡





# 京都市内遺跡試掘調査概報

平成5年度

発行日 平成6年3月31日  
発行 京都市文化観光局  
編集 京都市埋蔵文化財調査センター  
住所 京都市上京区今出川大宮東入元伊佐町265-1  
TEL (075) 441-5261  
印刷 真 福 社